

# 青於藍 あい ~藍よりも青く~



2016年9月30日発行 第6号  
発行：福島県立相馬高等学校第1学年



## 究極の片思い

突然ですが、皆さんは好きな人はいますか。そして愛の告白(言い方が死語かもしれません)をした経験のある人はいますか。その人への想いが強ければ強いほど、こころは苦しいものです。

高校時代、私の好きな人はサッカーでした。好きではじめてのサッカーでしたが、全てが良かったわけではありません。むしろ苦しい3年間だったかもしれません。辞めたいと思ったことがなかったなんて嘘になります。「こうありたい」、「もっと輝きたい」と強く思えば思うほど上手いかなかったときの

ショックが大きい。自分のプライドが傷つかないよう、サッカーに対してあえて冷めて向き合うこともありました。当時の自分は「なんでオレばかり」、「あいつのミスさえなければ」と悲劇の主人公ばりに勘違いをし、失敗や上手いいかない原因は全て自分の外にあって、原因のベクトルを自分のこころに向けていませんでした。サッカーだけでなく、何もかもがとことん嫌になった時期もありました。そんな腐った自分に向き合ってくれたのが、先生であり、友人であり、家族でした。この人たちと話していくなかで、あるいはひとり部屋に籠って、サッカーをする意味や生き方など自分自身について真剣に考えるなかで、考え方の甘さやサッカーへの失礼な姿勢に気づくことができました。「原因はいつも自分」。心が落ち着いていたり余裕のある時は、失敗は起こりにくく修正も容易です。しかし、ひとたび状況が苦しくなったり責められたりすると、心は乱れベクトルは外を向き周りを非難しがちです。真価が試されているのは苦しい時であり、苦しい時の姿勢が今後の進路を決定づけます。本気で向かい合ったものだから苦しく、しかし苦しいからといってそれと引き換えの見返りは期待してはいけません。それでもサッカーは、私に多くのことを教えてくれました。

本気で好きなものだから思い通りにいこう懇願し、思い通りにいかない悲観する。思い通りにいかないからやりがいがあり、思い通りにいった時の達成感や満足感は言葉では言い表せないものがある。真剣に向き合っているから苦しい。両想いではいけません。究極は片思いです。私は今でもサッカーに片思いです。皆さんは、今真剣に苦しんでいるものはありますか。人生のうちのたった3年間です。大いに苦しみ、何かを得てほしいと願っています。(齊藤祐介)

## 文理選択最終確認について

中間考査が終了しテスト返却後、文理選択の最終確認を行います。今回の調査が最終確認となり、以後変更はできませんので、生徒・保護者間でよく相談の上、保護者捺印の上用紙を提出して下さい。

## 10月の行事予定

10月	3日(月)	2学期中間考査3日目・衣替え
	4日(火)	2学期中間考査4日目・防火避難訓練
	14日(金)	面接週間~20日(木)・短縮45分授業(~20日)
	18日(火)	7校時カット 12年PTA合同進路講演準備会(18:00若駒会館)
	19日(水)	月曜日の授業
	20日(木)	7校時カット
	25日(火)	12年PTA合同進路講演会(18:00大講義室)
	27日(木)	進路講演会(6・7校時 講武堂)
	29日(土)	進研記述模試



## 保護者対象：PTA進路講演会について

**25日(火) 18:00~ 大講義室 講師：河野仙一氏**

1・2年の合同PTA進路講演会が上記の日程で開催されます。講師の河野仙一氏は進研模試を実施しているベネッセの福島県担当で、模試の結果分析の他、入試動向の分析も行い、特に東北の大学の入試については確実性の高い情報を持っています。今回の講演内容はご家庭での進路指導にも大いに役立つと思いますので、多くの保護者の参加をお願いします。参加の有無を10月20日までにお子様を通じて担任に提出して下さい。



## 7月の進研模試の結果から見えること

### 相高での3年間を「井の中の蛙」で終わらせないために

7月に行った進研模試(国数英)の結果から1学年全体の成績について以下の点が見えてきました。

①英語ができない(偏差値50以上わずか14人。例年は30人以上)

入学直後の基礎力テストの結果からも予想できたのですが、英語の成績が極めて悪い状況です。言うまでもありませんが大学入試を突破するには英語は避けて通れません。語学を身に付けるのに近道はありません。声に出す、手で書く、耳で聞くといった地道な体を使った学習が必要です。努力を積み重ね、模試では偏差値50以上を目指して下さい。偏差値50は全国の受験生の平均値ですので、50をクリアすることが志望校合格への最初の関門です。

②数学の上位者が少ない(偏差値60以上6人。昨年19人。一昨年9人)

理系学部への進学を目指す生徒には数学を得意科目にしてほしいところですが、国公立文系学部への進学を考える場合にもセンター試験で数学が課されます。東北大学では文系学部でも二次試験で数学が課されます。「苦手だから手を抜く」を繰り返すと結局は自分の進路を狭めていきます。苦手を得意に変え、得意をもっと得意に変える貪欲さが必要です。校内順位ではなく全国順位に目を向けるようになってほしいところです。

③本や新聞を読まない生徒が多い

最近の大学入試では推薦やAOでの合格枠が増えており、本校の卒業生を見てもそれらの制度で合格する生徒が増えています。そこで必要とされるのが小論文を書く力、面接を突破する力、教科の枠にとらわれない総合問題を解く力です。これらの力は普段の読書体験と問題意識によって養われます。ゲームやバラエティー番組に費やす時間を、読書や社会問題を取り上げたドキュメンタリー番組を見る時間に変える必要があります。

④自宅学習時間が少ない・宿題以外の自主学習に取り組んでいる生徒が少ない

「一人で宿題に取り組めない」という生徒が30%もいます。勉強は最終的には一人ですもの。孤独に耐えられない生徒は結果を残せません。また「自宅学習時間が確保できない」と答えている生徒が51%います。部活や通学時間が長いことも理由でしょうが、時間は自ら作るものです。上手にやりくりして学習時間を確保してほしいと思います。さらに、自主学習に取り組んでいる生徒が少ない点も気になります。授業や宿題に着実に取り組んでいくことが基本ですが、難関大学を目指すのならより高いレベルの問題に自らチャレンジする姿勢が必要です。

高校生活を夢を叶える3年間にするか、楽しいだけの3年間にするかは、一人一人の生徒にかかっています。1年の半分以上が過ぎた今が高校生活の分岐点です。初心を忘れず、夢の実現に向け再スタートを切ってほしいと思います。

## 生徒対象：進路講演会 講師：本城慎之介氏

CSLにご支援いただいていた実施してきた講演会も今回が最後になります。最終回の講師の先生は元楽天副社長で、横浜市の中中学校校長を30代前半で務め、現在は株式会社音別代表である本城慎之介氏です。氏は、津波の被害で大きな被害を受けた宮城県南三陸町に高台移転用地として同町内の土地106ヘクタールを寄付したことで話題になった人ですが、その点を除いても非常に面白い人生を歩んでいる人のようです。どのような話が聞けるかとても楽しみです。

